

教育目標		学ぶ意欲をもち、人を思い、生き生きと活動する子どもの育成				総合評価
経営方針		教育に情熱をもち、研究意欲に燃え、みんなで前に進もうとする学校づくりに励む。 (地域から信頼される学校。公平で厳しさの中に温かさのある教職員)				
令和4年度の成果と課題		指導の重点目標		具体的目標		
【成果】 ・教職員全体による「道徳の研究」 ・自分ごととして高めてきた「挨拶」活動 ・全教職員で全ての児童を見るところという共通認識 【課題】 ・「読解力」の向上 ・基礎・基本の向上 ・「付けたい力」を意識した学び合い ・児童会活動を組織化し発達段階に応じた「主体性」の育成	(確かな学力) ・基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせ、ICT機器を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりを行う。		基礎的・基本的な知識・技能を育成する。 習得：活用・探究等の学習過程でICTを効果的に活用し、情報活用能力を高める。 各教科の見方・考え方を働かせ、協働的な活動をとって資質・能力を高める。			
	(豊かな心・ふるさと教育) ・基本的な生活習慣や、自ら進んで「あいさつ」ができる力を身につけさせる。 ・特別活動を充実させ、児童の主体性を育成する。 ・人間尊重の精神に徹し、なかまと支え合い高め合う集団づくりに努める。 ・地域との連携を強化し「ふるさと教育」の充実を図る。 ・保護者や他校種及び関係機関との連携を深める。		全教職員で『気になる子』の共通理解を図り、組織的な取組を行う。 特別活動を活用し、自主的・主体的な児童を育成する。 教育活動全体を通じて「道徳性」を養うとともに、一人ひとりの人権を尊重する児童を育成する。 探究的な学習過程をとって地域の良さを学び「ふるさとが好き」という心情を育成する。 教育活動全般において保護者や他校種及び関係機関と連携し、共に児童を育成する。			
	(健やかな体) ・健康・安全について理解を深め、基本的な生活習慣の定着を図ると共に、体力向上を目指して運動に積極的に親しもうとする児童を育成する。		基本的な生活習慣の見直し・点検をとって、自己の健康や安全について自ら改善する意欲と実践力を育成する。 運動に積極的に取り組ませ、楽しさを味わわせるとともに、自己の体力を高めようとする意欲を育成する。			
	(働き方) ・心身ともに健康を維持しながら、毎日笑顔で児童と向き合える働き方をめざす。		業務のスリム化や効率化を遂行し、ワークライフバランスの推進を図りながら、教育の質を向上させる。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能を育成する。	○読み・書き・計算の力を伸ばすための取組として、全学年、算数と国語の基本問題に取り組む。また計画的な課題の提供や、個々の能力に合わせた指導を行う。				
	習得：活用・探究等の学習過程でICTを効果的に活用し、情報活用能力を高める。	○学ぶ喜びや達成感を高めるために、ICT機器を活用した指導や学び方・考え方を取り入れ、分かる授業づくりに努める。教材研究をしっかりと行い、自信をもって授業に臨めるようにする。				
	各教科の見方・考え方を働かせ、協働的な活動をとって資質・能力を高める。	○読書活動を充実させ、文章をイメージ化し内容を落とさず読む力を育成したり、長文問題に根気強く取り組める力を育成したりする。 ○全校や学級での学び合いの活動を通して、コミュニケーション能力や主体的に学習に取り組もうとする態度を養う。そのために、指導法の振り返りや研修等を定期的に行う。				
豊かな心・ふるさと教育	全教職員で『気になる子』の共通理解を図り、組織的な取組を行う。	○会議等で「気になる児童について」の共通理解を図り、職員全体で同じ価値観をもちながら児童の指導に関わる。また、学校のきまりに基づき、毅然とした態度で指導する。 ○日常生活のあらゆる場面で、自分からあいさつができるように継続的な取組を行う。特に校外で地域の方に『あいさつ』ができる力を育成する。				
	特別活動を活用し、自主的・主体的な児童を育成する。	○年35時間の学級活動の時間に「活動内容①②③」の話し合い活動を確実にを行い、児童の自主性・主体性向上を目指す。係活動や学級での集会活動も日常的に取り組む。 ○委員会活動やクラブ活動では、児童が選んだり話し合ったりする場面を多く設定し、自治的な取組をさせる。また、学校行事への参画も積極的にを行うようにさせる。				
	教育活動全体を通じて「道徳性」を養うとともに、一人ひとりの人権を尊重する児童を育成する。	○年間計画に基づき、「道徳」の授業を「なかま」等の副教材も随時活用しながら年間35時間確実に実施する。また、各自が重点項目を意識し、自分自身の課題をもって道徳科の研修に取り組む。 ○学級や学校のなかまが互いを理解し、励まし合い、支え合う集団づくりに取り組む。また、毎学期「いじめに関するアンケート」を実施し対応する。				
	探究的な学習過程をとって地域の良さを学び「ふるさとが好き」という心情を育成する。	○総合的な学習の時間に「ふるさと学習」を位置付け、地域との連携を深めながら(ゲストティーチャー等の活用など)地域への理解を深める取組を進める。				
	教育活動全般において保護者や他校種及び関係機関と連携し、共に児童を育成する。	○学校や学級の様子を通信等で発信し、教育活動を知らせ理解を得る。また、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の定着等を家庭と連携しながら達成をめざす。 ○保育所や中学校との連絡調整を、各連絡会等に参加しながら進め児童がスムーズに入学・進学できるように体制を整える。また、十津川地域連携教育推進組織の活動を充実させる。				
	健やかな体	○栄養教諭と協力しながら、「食育」の授業や「食に関する指導」を行い、食事の大切さを育成する。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携しながら、児童の困り感に対する効果的な指導・支援を行う。 ○外遊びを奨励し、県教委「外遊びチャレンジ」に取り組む。また、体育委員会を中心に、全校で運動をする機会を計画し実践する。				
働き方	業務のスリム化や効率化を遂行し、ワークライフバランスの推進を図りながら、教育の質を向上させる。	○超過勤務が月45時間、年間360時間を超えないようクロックアウトを意識する。また、無駄を省いたり、効率的な方法を考えたりして業務改善を行うように心がける。				